

成人年齢を引き下げるべきだという議論がある。日本以外の国々、特に先進国では一八歳で成人というのが主流だということと、選挙権が一八歳以上に引き下げられたというところとが、引き下げの根拠になっている。だが、今まで二〇歳を成人としてきた日本が、これらを理由にして、わざわざ成人年齢を引き下げる必要があるのだろうか。	確かに、昔の若者はほとんどが十代で仕事に就き、結婚もしていた。ヨーロッパなど外国ではほとんどの国が一八歳を成人とし、政治参加もさせている。日本でも、一八歳ですでに就職して経済的に自立している人は少ない。一八歳を成人とする制度は、別に悪いものではない。しかし、現実的には、一八歳から二〇歳の日本の若者の多くが親のお金で大学や専門学校に通っている。完全に、養われていた状況だ。中には引きこもりなどでどう見ても成人としての責任を果たせるような人格を持っていない若者もいる。ヨーロッパ
--	--

パでもその年齢の若者は大学などに通っているだろうが、日本に比べて学費が非常に安く無料の国さえあると言う。親に負担をかけずに自力で将来の設計図を描いているのだ。

私は、人間が本当に成人と呼ばれる資格を持つのは、就職して経済的に自立できてからだと考えている。いわゆる社会人であることが、成人の定義だ。だから、中学を卒業して就職した人は、その段階でもう成人だと言っている。

一方、二十代後半でも親のお金で大学や大学院に通っている学生は未成年だ。そのように、人により、本当の成人になる年齢は異なる。でも、それでは制度的・法律的な判断が複雑で難くなる。だから、とりあえず国民共通の成人年齢を決めておく必要はある。それだけのことだ。一八歳でも二〇歳でも、成人もいれば未成年もいる。人によつて事情は異なるのだからそれでいいのだ。外国がどうであつても、また、一八歳の未成年に選挙権を与えて未成年の主張を国政に取り

